

## ▼アイソボリン点滴静注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 レボホリナートカルシウム levofolinate calcium 【分類】 活性型葉酸製剤

【単位】 ▼25mg・▼100mg/V

【常用量】 1回 100～250mg/m<sup>2</sup> [詳細は添付文書参照]

【用法】 点滴静注 ■10～15mLの5%ブドウ糖液、生食、電解質維持液等の溶解液で溶解し、全量を200～500mLに希釈

【透析患者への投与方法】 設定されていないが、腎障害のある患者では副作用が強く表れるおそれがあり慎重投与 (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 設定されていないが、腎障害のある患者では副作用が強く表れるおそれがあり慎重投与 (1)

【特徴】 Biochemical Modulation の考え方に基づいた化学療法に用いられる葉酸誘導体。ホリナート [ロイコボリン] (dL-ロイコボリン) から d 体を除いた、生物活性を有する l 体のみ製の製剤。葉酸代謝拮抗剤メトトレキサートによる治療に際して解毒薬として用いられる。

【主な副作用・毒性】 下痢、腸炎、骨髄抑制、白質脳症、ショック、心不全、肝障害、腎障害、手足症候群、DIC、急性肺炎、消化器症状など多数

【代謝】 未変化体はテトラヒドロ葉酸の 5-ホルミル体で、血漿中代謝物として S-5-methyl tetrahydrofolate (S-5-CH<sub>3</sub>-THF) が検出 (1)

【排泄】 レボホリナート 46.4%, S-5-CH<sub>3</sub>-THF 31.8% [iv, 24hr まで] (1)

【t<sub>1/2</sub>] 0.6～1hr (1)

【蛋白結合率】 資料なし (1)

【Vd】 資料なし (1)

【MW】 511.50

【透析性】 資料なし (1)

【TDM のポイント】 有効治療濃度 10 μM (1)

【相互作用】 フルオロウラシル関連の相互作用に注意 (1)

【更新日】 20160203

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。